

亀越池 (かめごしいけ)

位置図



亀越池

諸元

貯水量	958	千m ³
満水面積	19	ha
受益面積	543	ha
堤高	19.0	m
堤長	104.1	m

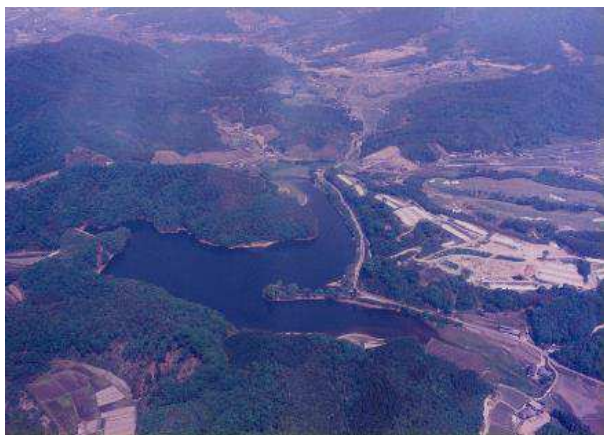
国道 438 号線から炭所農免農道を^{すみしよ} 広袖方面に進むと南側に「亀越池」が広がってきます。

この池は^{うた} 鶴足郡岡田^{かみむら} 上村の^{まんどころ} 政所の重職にあった久次郎が、岡田の村々が干害で苦しんでいるのを救うため、新池を築き岡田村の打越池に水を引くことを計画し、遠く離れた片岡郷炭所の炭焼長者の里（現在のまんのう町炭所東）の山中に候補地をみつけ、私財を投じ池敷の買収を行い、また住民の移住や地水権及び各分水交渉など多岐にわたる苦労の後、2 年の歳月を掛け寛永 10 年（1633 年）現在の「亀越池」を築いたもので、その功德は打越下池下流の碑に記されています。

丸亀市指定無形民俗文化財の「岡田おどり」は岡田の村人たちが久次郎の労苦を想い、遺徳を偲んで踊ったのがその始まりと言われ、毎年 8 月には追悼盆踊りとして「旧岡田上村政所久次郎紀功之碑」前で踊るのが習わしとなっており、現在も受け継がれています。

また、平成 2～12 年（1990～2000 年）に実施された満濃東部地区の県営かんがい排水事業では、従来岡田地域が利用してきた亀越池用水と香川用水の水源転換にかかる協定が結ばれ、満濃東部地区の受益者が亀越池からの水を利用することで、より経済的かつ安定した農業用水の確保ができることとなりました。

さらに、平成 8～10 年（1996～1998 年）には、国営総合農地防災事業により堤体の全面補強と洪水吐の改修が実施され、先人が築かれた貴重な水利施設は永く後世に引き継がれることとなりました。



亀越池



久次郎紀功之碑